

記入例

(様式第1号)

令和〇年 〇月 〇日

一般財団法人自治体国際化協会
理事長 氏名 様

団体名 〇〇市
所在地 〇〇県〇〇市〇〇-〇〇
代表者名 〇〇 〇〇

地域国際化推進アドバイザーの派遣依頼について

標記の件について、別紙のとおり申請します。

(添付資料)

- 1 地域国際化推進アドバイザー派遣申請書 (様式第1号別紙)
- 2 事業内容の分かる資料 (事業企画書等)
- 3 直近の外国人住民の現状が分かる資料 (多文化共生社会推進計画等)
- 4 団体の直近の多文化共生施策の取組実績が分かる資料 (事業実績報告書等)

地域国際化推進アドバイザーの派遣申請書

申請者	住所	〒000-0000 〇〇県〇〇市 〇〇-〇〇		
	名称	〇〇市役所		
	代表者	〇〇 〇〇		
担当者	所属	〇〇部	〇〇課	〇〇係
	役職 (ふりがな)	主事 くれあ たろう		
	氏名	クレア 太郎		
	連絡先	TEL000-0000	FAX000-0000	E-mail clair@clair.jp
申請内容	希望する期日	令和〇年 〇月 〇日 (〇) 10時00分～12時00分 13時00分～15時00分 ※12時00分～13時00分は昼食休憩予定		
	アドバイザーの派遣を申請する目的	〇〇市では、「災害時外国人支援サポーター」というボランティア制度を実施しており、年に2回サポーター向け講座を開催している。 令和〇年度2回目の「災害時のやさしい日本語」講座では、講義と避難所掲示物のやさしい日本語への翻訳作業を行い、サポーターが外国人被災者へ安心を届ける重要性を考える契機としたい。		
	派遣希望するアドバイザーの要件	専門分野	※希望する項目にチェックして下さい <input checked="" type="checkbox"/> 災害時の外国人支援（支援者の育成を含む）、外国人住民への防災啓発に関する知識やノウハウの提供、助言及び指導 <input type="checkbox"/> 国際協力、国際交流及び国際理解教育に関する知識やノウハウの提供、助言及び指導 <input type="checkbox"/> 多文化共生のための施策の構築及び実施に関する知識やノウハウの提供、助言及び指導 <input type="checkbox"/> 地方公共団体等とNGO/NPO等との連携・協働に関する助言及び指導 <input type="checkbox"/> その他（具体的に：_____）	
		期待する役割（具体的に）	以下を含めていただき、ボランティアに求められる役割、心構えについて考える契機となることを期待します。 ・「やさしい日本語」を用いた外国人被災者への情報提供について ・求められるボランティア像 ・平常時に築くべき外国人との関係	
	派遣期間中の主な活動内容及び日程	活動内容	参加対象者及び人数 (予定)	
		10時00分～12時00分 講義	30名程度	
		13時00分～14時30分 ワーク（翻訳作業） 14時30分～15時00分 質疑応答		
	アドバイザー派遣方法の希望	※希望するアドバイザーの派遣方法にチェックして下さい <input checked="" type="checkbox"/> 現地派遣 <input type="checkbox"/> オンライン型派遣 <input type="checkbox"/> どちらでも良い		
※「現地派遣」又は「どちらでも良い」を選択した場合は、以下①及び②を記載して下さい。				

①派遣先	会場名	〇〇市役所 2階大会議室	
	住所	〇〇県〇〇市 〇〇-〇〇	
②研修等の日程やアドバイザーの所在地など条件により、アドバイザーの宿泊費が発生する場合の宿泊費の負担の可否（いずれかに○）			可・否
特記事項			

添付書類：1. 事業内容の分かる資料（事業企画書 等）

2. 直近の外国人住民の現状が分かる資料（多文化共生社会推進計画 等）

3. 団体の直近の多文化共生施策の取組実績が分かる資料（事業実績報告書 等）

〇〇市
令和〇年度 「災害時外国人支援サポーター養成講座」 実施計画書

目的

〇〇市では、ここ7年間で外国人住民（主に技能実習生）の人数が〇〇人から〇〇人に大きく増えている。以前は外国人住民が少ない地域であったこともあり、災害時の外国人被災者への支援体制に不安がある。そのため、災害時の外国人支援に関わる人材として災害時外国人支援サポーターを養成する。

災害時外国人支援サポーターとは

大規模災害が発生した際に被災地等で外国人を支援し、安心を届けるボランティア

(目指す人物像)

- ・ 平時から外国人住民と「顔の見える関係づくり」を築くことができる人材
- ・ 災害時の適切なボランティア活動について知識と体験で習得するとともに、それを基に平時における活動の大切さを考えられる人材

(主な支援の内容)

- ・ 多言語や「やさしい日本語」による情報提供、及び外国人被災者のニーズを把握する。
- ・ 言葉や文化等の違いによる住民間の摩擦に対応する。

(登録者数)

- ・ 既存のサポーター数 (〇〇名)
- ・ 新規のサポーター募集 →市広報誌に〇月掲載予定

(重点項目)

- ① 災害時外国人支援サポーターのすそ野を広げる取組み（特に若年層の参加促進）
→広く声掛けをして参加を促進する。
 - ・ これまで参加したことのない協会の会員（特に学生会員などの若年層）
 - ・ 地域の外国人住民
 - ・ 町会・自治会、地区社協、大学など
- ② 災害時外国人支援サポーターのスキルアップ
→訓練を通じて、現時点で「できていること」「できていないこと」を共有し、今後の検討課題を明確にする。

実施計画の概要

昨年は、新型コロナウイルスの影響により講座を中止したことから2年ぶりの開催となるため、改めて、災害時外国人支援サポーターに求められる役割について研修を行う。

また、大規模災害時に「災害多言語支援センター」が設置された状況を想定し、センターと連携して災害時外国人支援サポーターが実際に行うことになるボランティア活動の一部を実践訓練する。

研修日程

○月○日（○） 「第1回養成講座研修」

○月○日（○） 「第2回養成講座研修」

【1】第1回養成講座研修について

(日時) ○月○日（○） ○○時から○○時まで

(会場) オンライン講座

(内容) 講義

「災害時に外国人が直面する課題とボランティアに求められる役割」

「災害多言語支援センターの役割」

(目的) 被災地で外国人支援に携わった方を講師としてお招きし、災害時に求められるボランティア像や平時から外国人住民と顔の見える関係を作る大切さ等について講義いただき、外国人被災者へ安心を届けるために、ボランティアができることを考える。また、大規模災害時に設置される「災害多言語支援センター」の役割について学ぶ。

【2】第2回養成講座研修について

(日時) ○月○日（○） 10時00分から15時00分

(会場) ○○市役所○会議室

(内容) 講義「災害時の外国人への情報提供とやさしい日本語」

ワーク「避難所の掲示物の「やさしい日本語」翻訳作業」

(目的) コロナ禍において、災害多言語支援センターへの参集ではなく、地元の避難所を訪問したことを想定し、避難所において「やさしい日本語」を使って外国人被災者へ効果的に情報提供を行うための手法を学ぶ。

タイムスケジュール

09:30	市職員集合
09:50	講師来庁、機材チェック
10:00	【講義】 ※途中10分程度の休憩を想定
12:00	昼休憩
13:00	【ワーク】 ※6名ごとに1グループに別れて作業予定。 ①受講者自己紹介 ②翻訳作業の考え方・ポイントの説明 ③個人での翻訳作業 ④グループでポイントの検討 ⑤ふりかえり ⑥全体での質疑応答
15:00	終了